

報道資料

函 南 教

令和8年7月2日

報道機関各位

函館市教育委員会 生涯学習部
南茅部教育事務所長 田中 哲也

南茅部地域の中学生が「福祉」を学ぶ「ノーマリー教室」の取材・報道
について(依頼)

このことについて、下記のとおり開催いたしますので、当日の様子について取
材・報道方よろしくお願いいたします。

記

- 1 日 付 令和8年7月15日(水)
- 2 時 間 9:50~11:50
- 3 実施場所 南茅部総合センター 講堂
- 4 参加者 南茅部中学校 2年生 24名
- 5 内 容

南茅部地域の中学生を対象に、高齢者・障がい者への理解を深める「ノーマリー教室」を開催いたします。なお、本事業は小学校とも連携しており、今年度は3月5日(金)に小学生対象の実施も予定しております。

子どもたちが地域社会の中で多様な人々と共に生きていくための「心」を育むことを目的としており、当日は、函館大妻高等学校福祉科の皆様にご協力いただき、専門的な知見に基づいた疑似体験や車いす体験を行います。

体験学習を通じ、障がいや高齢への理解を深め、身近な社会への関わり方を見つめ直す子どもたちの姿を、ぜひご取材いただけますと幸いです。

南茅部教育事務所
担当者 高野
連絡先 25-3789

函館市立南茅部中学校 <出前授業> 予定表

函館大妻高等学校

1. 日時 令和8年7月15日(水) 9:50~11:50
2. 場所 南茅部総合センター 講堂
3. 対象 2年生 24名(男子 12名、女子 12名)
4. 進行予定
- | | | |
|-------------|-------|-------------|
| 9:55~10:10 | (5分) | 始めの言葉 |
| 10:00~10:10 | (10分) | 講話(森教頭) |
| 10:10~10:35 | (25分) | 実習内容説明・模範実技 |
| 10:35~11:40 | (65分) | 生徒体験実施 |
| 11:40~11:45 | (5分) | 終わりの言葉、他 |
5. 体験内容
- | | |
|------------|----|
| ①高齢者疑似体験 | 全員 |
| ②車イス体験 | 全員 |
| ③視覚障害者歩行体験 | 全員 |

6. グループ毎の動き

体験グループ	体験の流れ
Aグループ(12名)	高齢者疑似体験 → 車椅子体験・視覚障害者歩行体験
Bグループ(12名)	車椅子体験・視覚障害者歩行体験 → 高齢者疑似体験

7. 各体験場所での動き

体験項目	体験の流れ
高齢者疑似体験	Aグループ → Bグループ
車椅子体験視覚障害者歩行体験	Bグループ → Aグループ

*生徒は2グループに分かれて体験する。

*体験は2ヶ所で同時スタートする。

*すべての体験は、2人1組で実施する。(すべて同じペアで体験する)

8. 具体的体験内容

①高齢者疑似体験

*高齢者体験者と介助者（グッズの装着介助と歩行介助）の2人1組で実施する。

インスタントシニア装着 → 色紙を見る → 財布から小銭を出し、貯金箱に入れる
→ 床から番号カードを拾う → ユニバーサルデザイン食器体験 → 階段昇降 →
出発点に戻る → 体験者と介助者が交代し同様に体験する

②車椅子体験

*車椅子利用者（ゴーグル装着）と車椅子介助者の2人1組で実施する。

*コース体験後、自走体験

ゴーグルを装着し車椅子に座る → 平地走行 → 段差越え → スロープを上がる
→ 台上で方向転換 → 後ろ向きでスロープを下がる → ジグザク走行 → 出発点
に戻る → 役割交代し同様に体験

視覚障害者歩行体験

*視覚障害者体験者（アイマスク装着）と歩行介助者の2人1組で実施する。

*視覚障害者体験は白杖を使用し歩行する。

椅子に座り、アイマスク装着 → 基本姿勢をとる → 平地歩行 → マット上を
歩行 → 障害物（跳び箱）を超える → 平地走行 → 狭所通過 → さらに狭く
なった狭所通過

→ 出発点に戻り、椅子に座る → 役割交代し同様に体験する

*ユニバーサルデザインの日用品を確認する

9. 体験人数・所要時間の目安

①高齢者疑似体験 インスタントシニア 12セット使用

12人ずつ × 2回 = 24名（24名実施）

1人15分 × 4回 = 60分（65分）

②車椅子体験 車椅子イス 4台使用

4組（7人）× 4回 = 28名（24名実施）

各グループ 15分

視覚障害者歩行体験

各グループ 15分